

矢川寺遺跡出土の伊賀焼

甲南町森尻の北東、杣川の河岸段丘上に鎮座する矢川神社には、神宮寺であった矢川寺という寺院がありました。「帯は埋蔵文化財包蔵地」「矢川寺遺跡」として周知され、古代から近世にかけての遺構や遺物が確認されています。

矢川神社および矢川寺の記録である『矢川雑記』によれば、室町時代の矢川寺は僧坊七宇を擁していましたが、天正期の甲賀衆改易により寺領は没収され、衰退しました。近世の矢川寺は慶長二年（一五九七年）に再興されたと伝えられています。

再興後の本堂であった清浄院の敷地内で行われた発掘調査では、東側で礎石建物の根石とされる集石遺構が確認され、建物があったことが明らかになりました。また、西側では溝や井戸、水溜場を検出し、庭園として利用されていた可能性があります。

発掘調査では「矢川」の墨書銘が記された志野皿や、茶の湯の道具として使用された矢筈口水指などが出

土しました。この水指は、胎土がきめ細かく珪石をほとんど含まないことから、伊賀焼と考えられています。さらに、伊賀市阿山町の西光寺窯跡出土品と類似していることから、西光寺窯で焼かれた可能性が高いと考えられます。

また、瀬戸・美濃の天目茶碗など茶の湯や懷石で用いられた陶器も出土しており、いずれも十六世紀後半から十七世紀初頭のものと考えられます。これらは近世矢川寺の再興期と重なります。

矢川寺遺跡で発見された矢筈口水指は、現在、甲南ふれあいの館で展示中です。多彩な民具とともにぜひご覧ください。



甲南ふれあいの館展示風景

問 歴史文化財課 埋蔵文化財係 ☎ 69-2251 ☎ 69-2293

行こうか! 万博

関西の魅力ある産業が一堂に!"守・破・離"〜関西の伝統工芸等の未来への飛翔〜に参加しました!

地域資源や特産品を海外にもっと知ってもらうため、国がモデル地域として支援する12の地域ブランドが集結し、魅力を発信する万博催事「守・破・離」が8月17日に開催されました。信楽焼もこのブランドに選ばれており、信楽焼伝統工芸士会によるロクロの実演や信楽中学生カンパニーの活動展示などを行いました。また、多くの大学生もエントリーする学生ビジネスアイデアコンテストに信楽中学生カンパニーが参加し、審査委員長賞に選ばれました。

万博を通じ、信楽焼のさらなる知名度向上と、産地の特性を発信する機会となりました。



予告

〜万博の財産を子どもたちに〜
中島さち子プロデューサーがやってくる!

万博パビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」のプロデューサー・中島さち子氏を招き、アートやクラフトなど豊かな表現にふれる体験を通じた学びのイベントを11月9日(日)、県立陶芸の森太陽の広場で開催します。万博の秘話や楽しい演奏などの企画がいっぱいです。この場限りの特別な時間をみんなで共有しましょう!



イベントの詳細は
11月号に
掲載します



問 商工労政課 地場産業振興係 ☎ 69-2187 ☎ 63-4087

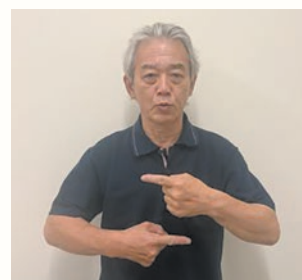
©Expo 2025

共生社会の実現を!

聴覚障がい者のコミュニケーション

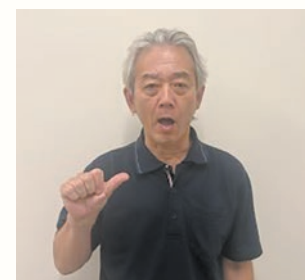
「聴覚障がい者」といっても、さまざまな方がおられるのはご存じでしょうか。聞こえづらい方、言語習得後に聴覚を失った方、先天的に聴覚を失っている方です。今回はそのような聴覚障がい者のコミュニケーション方法をいくつかご紹介します。

①手話



▲手の動き、指の形、表情などを使います。地域差、個人差があります。

②指文字



▲五十音の一つひとつを指の形で表します。

③筆談(空書)



▲紙や手のひら、目の前の空間に文字を書いて伝えます。

④音声



▲残存聴力のある方に有効です。ゆっくり、ハッキリ話します。補聴器や人工内耳、スマホアプリを利用することもあります。

このように、誰もがコミュニケーションをとることができます。それぞれのやり方でコミュニケーションをとってみませんか。



問 障がい福祉課 施策推進係 ☎ 69-2161 ☎ 63-4085